

本日は皆様ご多忙のおり、本校 PTA 会長 伊藤吾郎様、静岡市清水区区长 高木強様 はじめ、学園の内外から多くのご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席を賜り、かくも盛大に中等部第 70 回・高等学校第 20 回の入学式を挙行できますこと、高い席からではございますが、心から御礼申し上げます。

さて、中等部 152 名、高等学校 389 名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。そして、保護者の皆様、お子様のご入学心よりお祝い申し上げます。

少子化の折、私立・公立とも入学定員を満たさない学校が多い中、中等部・高校とも定員を大きく上回る、中・高合わせて 541 名という入学者数を得て、今年度をスタートすることができました。この 4 年間「変わる！静岡翔洋」を掲げて、本校の新しい教育方針、教育内容を広く訴えてまいりました。この入学者の数は、私達にとって、大変勇気づけられることであり、大きな自信となります。本校を選んで頂いた皆さんに心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

本校はここ数年、学校改革を進めてまいりましたが、施設設備面

での充実も図って参りました。人工芝グラウンドの完成やテニスコートを始めとする各運動施設の整備、新型スクールバス 3 台の導入によりスクールバスの数は現在 16 台となりました。W i f i の環境を整備し、今年度は全教室にプロジェクターを設置して I C T 教育を推し進めていきます。昨今話題になっております和式トイレの問題も昨年夏にウオッシュレット式の洋式トイレに致しました。施設設備の充実は静岡県下でトップであると言っても過言ではないと思っております。

しかし、もっとも大事なものは施設設備ではありません。これらの施設設備をどのように皆さんが有効活用し、有意義な学校生活を送るのか、そこに中心があるのです。

新入生の皆さんは、ここ清水区出身の広瀬すずさん演じる「ちはやふる」という青春映画をご覧になったでしょうか。百人一首の競技カルタの世界を描いた「ちはやふる 上の句、下の句、結び」の三部作です。

ひたむきで目標めざして邁進する主人公の「ちはや。」突進型の性格ではありますが、誰より仲間や友情を大切にする少女です。ちはやを含む、それぞれ個性や性格も異なる五人がカルタという競技を

通して目標を持ち、心を通わせ、時には、喧嘩し、対立しながらも友情を育み全国優勝を勝ち取るという典型的な青春物語です。

揺れ動く人間模様、青春期の不安定さ、心の葛藤、目標をひたむきに追いかける純粹さを余すところなくこの映画は表現していました。

しかし、みなさんの学校生活がこの映画のようにドラマチックに進むわけではありません。現実のストーリーが映画のようになるなどそんな甘い幻想を抱いてはいないでしょう。

平凡に過ぎ去る日常の中で、思い通りにいかなかったり、目標を見失ったり、挫折したり、苦しいこと辛いことも多いはずです。

しかし、大事なことはそこで立ち止まっていては何も生まれないし、成長も喜びもないということです。この映画はひとつの理想体なのです。そのあるべき姿、理想に向かって努力し、成熟していくことの素晴らしさをこの映画は教えてくれています。そして、そんなことが人生のどの時期にできるのかも示しているのです。

みなさんはもっと冒険をしなければなりません、ギラギラとした瞳を持たなければならないのです。「夢は必ずかなう」と信じて、良

い意味での無謀とも思える挑戦を続けることができるのが、まさに青春であり、皆さんは今その権利を手に入れているのです。

日本人は極端に失敗を恐れる国民であると言われていています。恐れて挑戦しない。しかし、99人が失敗するからチャレンジしないではなく、チャレンジしなければ今の自分を変えることはできない、目標にはたどり着けない、成功する方が稀なのだ、失敗をすることが次への飛躍になるということを皆さんに知ってほしいと思うのです。

挑戦する人間の失敗や挫折を笑う人間は常に挑戦しない人々です。同じように目標に向かって挑戦している人は、決して笑うことはしません。

今、皆さんの周りには、これから3年間をあるいは6年間を共に過ごす仲間が座っています。今は見知らぬ人かもしれません。しかし、コートで一緒に汗を流す友に、勉強でライバルとなる仲間に、全国大会を目指すチームメイトに、あるいは人間として目標となる友人に、そして生涯の親友になる人かもしれません。

みなさんの中学生活、高校生活、価値ある変化や感動はこの仲間

との挑戦なくして語れないということです。そして挑戦とは皆さんの日常生活の中の「一粒の汗」や、「一滴の涙」からスタートするのだということを忘れないでください。

美しい桜吹雪の中、碧く光る太平洋と秀麗富士がみなさんの門出をお祝いしています。素晴らしい学校生活となることを祈念いたしまして校長の「告辞」といたします。入学おめでとう。